

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200248		
法人名	社会福祉法人 和福祉会		
事業所名	グループホーム庄の里「なごみの家」		
所在地	倉敷市西尾11-1		
自己評価作成日	平成30年2月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200248&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13番1号		
訪問調査日	平成30年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気作りと、ご入居者個々の生活を大切にしています。挨拶、笑顔、やさしさ、又サービス計画に、「心を元気にする」メニューを取り入れ、その方の生活を心をこめて支援する事を、施設理念・運営の基本としています。なごみの家での生活が役割を持ち、やりがいのある充実して、楽しいと思っただけのような雰囲気作りを心がけております。四季おりおりには、外出行事や地域の行事などにも主体的に参加出来るように支援して行きます。創作活動、レクリエーションなども取り入れて活気のある生活の場所を提供します。コミュニケーションを図り信頼関係を深め職員も家族の一員であるような関係性を持つ事を目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現場の業務が長かった職員が前任者の退職に伴いH29年4月から管理者に就任した。管理者の業務はなかなか大変ですと言いながらも、「現場が楽しい」と笑顔で言い切る姿を見て、このホーム・利用者を大切に想っている事が伝わってきた。そして「職員に対しても言うべき事をきちんと伝えて同じ方向性に向けて頑張っていく」と熱い抱負を語ってくれた。今、介護事業の世界では職員不足が深刻で、人材確保の厳しい状況のホームが多い中、「庄の里なごみの家」は職員体制も充実しており、勤務年数の長い職員が多くチームワークがよく取れている。利用者達の人懐こい笑顔や気軽に私達にも話かけてくれる様子からも、ここでの暮らしを楽しんでいる事が確信できた。サービス計画に「心を元気にするメニュー」を取り入れ、実践を積み重ねてきた成果は着実に表れていると感じた。地域交流も活発であり地域に開かれた存在としてのホームの貢献度は高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念をスタッフルームに掲示し、全体会議等の時に、再確認している。	理念を常に念頭におきながら日々のケアに取り組むと共に、昨日の申し送りを参考にしながら、朝礼の時に「今日の目標」を立てて業務にあたっている。昨日より今日を目指し、より良いケアを実践し、ステップアップ出来るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑仕事や散歩の時に、近所の方と挨拶や世間話をしている。近所の方がボランティアに来ていただいたり、花を植えたりしていただいている。散髪も地域のボランティアの方が2ヶ月に1回来て下さっている。	町内会長や地域の老人会がとても協力的であり、共助の精神で地域との連携がよく取れている。「倉敷市いきいきポイント」の対象施設になっており、畑の手入れや草取り、話し相手等の定期的なボランティアの訪問もあり、地域との交流も浸透してきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、なごみの家を知っていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、「なごみの家」の活動状況や様子を伝え、様々な助言をいただいている。	2ヶ月に1回開催している運営推進会議は多彩なメンバーで構成され、家族や利用者の参加もある。活動の記録写真を回覧しながら議事を進行して情報交換や意見交換をしている。議事録には利用者の発言も記録されており、参加している利用者も毎回異なる。	毎回、利用者と家族の参加があり、利用者にも発言してもらい記録にも残している。こんな取り組みをしているホームはそう多くはない。これからも一人でも多くの利用者が会議に参加して発言する機会を作ってあげて下さい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で民生委員・土木委員・老人会・地域包括支援センターの方に参加していただき、事業所の取り組み等を伝えている。	運営推進会議には地域包括の参加があり、情報提供をもらいホームの実情もよく理解してもらっている。6月の市の実地指導では水害の防災訓練についての指導をいただいた。何かあるとその都度、市の担当者に連絡して相談しており、良い連携が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人・中途研修、施設内研修で身体拘束について勉強会を行なっている。またマニュアルを作成し、事業所内にいつでも観覧できるように置いている。	身体拘束をしないケアを職員もよく理解し実践している。帰宅願望がある人の中には、自宅が近所でいつでも歩いて帰れる距離だが、イザとなると拒む人もいと聞く。身体拘束委員会があり、高齢者虐待防止の研修等をして意識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人・中途研修、施設内研修で身体拘束について勉強会を行なっている。また高齢者虐待防止に関する資料を事業所内にいつでも観覧できるように置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人・中途研修・施設内研修で権利擁護等について勉強会を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行い、納得していただいた上で署名を行っていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見を述べやすいように、玄関に意見箱を設置している。毎月連絡表を家族に送り意見、要望を聞くようにしている。	毎月の請求書と一緒に、状況報告を記した手紙(写真掲載付き)や意見・要望等の記入用紙を家族に送っている。たまにお世話になっているお礼の返事は来るが意見・要望はない。運営推進会議に参加した家族からは感想や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議に理事長・管理者は参加し、職員の意見や要望、質問に答え反映させている。	各ユニット会議や全体会議をして職員間で運営に関する協議事項を話し合っている。年2回各職員が個別目標シートを作成してステップアップにつなげている。職員は近隣の人が多く、勤務年数の長い職員が多い。チームワークもよく取れていて職員体制も充実している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々個人目標を立て、その達成度を賞与に反映させている。また、勤務態度も賞与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受け、学んだことを管理者や職員にいきたものになるように指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修や外部との交流の場に参加させ、情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に入居者の情報を職員に把握させている。環境(場所や人間)が変わったので、コミュニケーションのハ場を増やし、馴染みの関係になるように尽くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時に家族や本人の思いや要望、不安に思うこと等を伺い、それに沿ったケアプランや処遇を検討し、行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、入所時に家族や本人の思いや要望、不安に思うこと等を伺い、それに沿ったケアプランや処遇を検討し、行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の立場に立った考え方、ケアを行うように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にす為、毎月家族に入居者の様子を手紙で伝え、行事には参加を呼びかけたり、入居者から要望があれば、家族に電話をかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友達が訪問に来られ、交流を図れる場を設けている。	自宅に愛犬を残し「犬が気になる」と言う人は家族の協力を得て会いに行き、庭木や花の水やりが気になる人は自宅に帰る事もある。家族、知人等の面会も多く、訪問しやすい雰囲気や環境を整えて馴染みの関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、フロアでの席の場所を配慮したり、職員が間に入るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、職員と入居者と面会に行き、交流を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや生活歴などから、本人の意向に合ったものを知り、畑仕事、生花、外泊、外出等を実行している。	一人ひとりの思いや希望をじっくり引き出すように利用者との「10分間ケア」に取り組んでおり、目標達成計画にも挙げている。またコミュニケーションを密に取りながら、双方の信頼関係が結ばれるように努めている。	今取り組んでいる「10分間ケア」は引き続き実施して、満足感を高めてあげて欲しい。しかし、話を聞くだけでなく、そこから得られた新しい情報や利用者の意向を記録に残して職員間で共有し、ケアプランにつなげて下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、入所時の事前情報、入居者との、コミュニケーションを通して把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の立場に立った考え方、ケアを行うように努めている。言葉、行動を理解し、記録に残し、職員の情報の共有を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で気づきを出し合い、介護計画に反映させている。モニタリングにより、介護計画の見直しを行い、より良い生活が送れるように支援し、記録に残し活用している。	本人・家族の意向や日々の介護記録を基に職員間で話し合っってニーズを掘り起し、目標を定めてケアプランを作成している。ケアプランの目標に対するチェックシートに実践状況を毎日記入して1ヶ月毎に評価をし、更に6ヶ月毎にモニタリングをしてプランの見直しをしている	介護記録を各職員がしっかり記入しているが、もう少し集約して本当に必要な事柄を強弱をつけて記録しても良いのではと思う。記載事項が多過ぎても後で読み返すのが大変と思うので、要点を絞る工夫も必要と考える。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録を活用し、日々の体調や生活の変化を、見逃さず、介護につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の介護のニーズを聞き、カンファレンスにより、そのニーズに添えるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者のご家族との外出や、外出行事を行わない地域資源を利用し、入居者と地域の方との交流を大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	365日24時間対応の強力病院と契約している。体調不良時等すぐに連絡がとれて、入居者やご家族、職員も安心できている。ご本人、ご家族の希望により、かかりつけ医を選択して頂いている。	定期的に協力医の往診があり、訪問歯科、訪問看護もある。他科受診は原則家族に付き添いをお願いしているが、難しい場合は職員が同行する事もある。職員に看護師が配置されているので、喀痰吸引も可能であり医療面でも安心出来、介護との連携プレーもよく出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	怪我や事故があった際には、必ず看護師に連絡し、指示を仰いでいる。状態によっては、看護師から協力病院に連絡し、往診を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が、入院した時には面会に行き、症状や様子について、病院関係者、家族から、情報収集を行なう。退院前には、カンファレンスを行い、ホームで対応できるように体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における看取り指針に沿って家族に説明を行い、随時体調の管理を行なう。体調に変化がある時は、主治医、職員、家族で話し合いをして、情報を共有する事になっている。	近年、看取りをするケースが増え、去年は2名を看取った。看護師・家族・職員が見守る中で穏やかに人生の終焉を迎えられ「このホームで良かった」と、家族から感謝の言葉をいただいた。現在も「ホームで最期を」という家族の希望により終末期ケアの人が2名いるので、出来る限りの支援をしていこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時や施設内研修で、事故発生時の対応については、研修を行なっている。又、事務室内にマニュアルを常備し、職員が何時でも閲覧できる状態にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(昼・夜想定、避難・誘導訓練、水消火器による消火訓練、水害訓練を実施している。消防署、防災会社の方にも協力して頂き通報訓練も行っている。その際は、運営推進会議のメンバーにも参加して頂き協力を得ている。(21・目標計画達成)	火災を想定した避難訓練の他に足守川の氾濫を想定した水害訓練を実施した。指定避難場所は近くの庄小学校になっているが、海拔1.8Mなので庄新町の4号公園を考えているとの事。水害・地震・風水害の3種類のマニュアルも作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、お一人お一人に合わせたケアを行い、プライバシーにも十分配慮している。	入所してまだ日が浅くプライドの高い人の場合には、その人の事をよく知り、どう対応すれば自尊心を損なわずに済むのか等、職員同士でしっかり話し合っている。排泄の声かけをする時は「トイレ」と言わない、居室のドアは閉める等、羞恥心やプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の日常生活を大切にし、入居者に寄り添い、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思を尊重できるよう訴えは傾聴し、居場所を見つけられるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様が好む服を着ていただいている。組み合わせや、薄着である時などは、自尊心を傷つけない言葉かけを行なうなどの対応を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際には、入居者が食べたい料理をお聞きしたり、一緒に買い物に行ったときに、食べたいものがあれば購入している。嫌いな献立がある方は、別献立にするなど工夫している。	家事が自分の仕事のように厨房で職員と一緒に立ち働いている人やホットプレートで各自、お好み焼きを焼いている人達がいた。一方のユニットでは手分けして下拵えをしたり盛り付けを手伝っていた。メニューは違うがそれぞれに美味しく楽しい食事風景だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつの際には、水分・汁物を飲んでいただくよう言葉かけをし、食事量・1日の水分摂取量をチェックしている。又、その方に合った食事形態で対応させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、口腔ケアを行い、自力で出来る方にはご自分で口腔ケアを行って頂き、職員が磨き上げを行なっている。協力歯科医、歯科衛生士に食事形態や口腔ケア方法について指導を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオシメを使用している入居者を、昼間定時にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を維持できるように努めている。	排泄が自立で布パンツの人でも見守りは必要であり、男性利用者もトイレに座位での排泄を基本としている。夜間のみポータブルトイレを使用している数名の人も、日中はその人の排泄パターンを見ながら、定期的に声かけをしてトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品を摂取して頂いたり、排便が2・3日見られないときは、散歩や運動をして頂いたり、ホットタオルで腹部を温めたり、冷たい牛乳を飲んでいただくなどして、出来る限り下剤に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に3回入浴日を決めているが、入居者の希望があれば、入浴日以外にも入浴して頂いている。入浴は昼間に行なっているが、夜間欲を希望されるご入居者には、夜間入浴して頂いている。	重度化し清拭で対応している人が現在2名いる。その他の人はシャワー浴、浴槽に入れるが全介助、自立で洗身・洗髪するが一部介助の人等、その人の状態により入浴介助をしている。拒否が強く大声や暴力が出る人もいるが、その人の喜んでくれる言葉を探して声かけする等、模索しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムに合わせた対応を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されれば、薬の名前・用法についてその都度理解・確認している。新しい薬が処方されたときは、記録を細かくとり、主治医・ご家族に状態等を伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の入居者が多いので、家事仕事は好んで行なわれている。手芸や生花、貼り絵等を職員と一緒にしたり、創作活動も個別に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食で個別対応し、法事への付き添い外出支援を行なっている。	秋の小旅行では倉敷美観地区へ出かけ、初詣には最上稲荷へお参りした。行楽の季節には花見や紅葉見学等の計画を立て、ユニット単位で出かけており、非日常的な外出を楽しんでもらっている。毎月の個別外出にも取り組んでおり、天気の良い日は散歩に出かけ、季節の移り変わりを肌で感じてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の紛失・トラブルが起きないように、入居者に合わせた支援を行なっている。職員と一緒に外出し、好きなものを購入させている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から、ご家族や知人に電話をかけたなどの申し出があれば、かけていただく様に行っている。ご家族との手紙のやり取りを行なっている入居者もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるものや、皆で作成したものを展示している。玄関には、入居者が生けられた、生花を展示していることもある。室内にもプランタンを置き、育てる楽しみ、季節を感じる事が出来るように工夫している。(21・目標達成)	リビングに続くベランダからは開放的な景色が広がり、日光浴・外気浴をしながらティータイムを楽しんでいる。壁絵の大作が何点も展示され、書き初めや塗り絵作品が壁を飾っている。算盤片手に計算問題にチャレンジしている人の姿もあり、それぞれが好きな事をして過ごしている寛いだ空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングの席の場所を配慮し、気の合う入居者と、過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、使い慣れた馴染みのあるものを、持って来て頂くようにしている。認知症の症状によっては、席の配置等の工夫を行なっている。	お手伝いの手を止め案内してくれた人の部屋に入ると、創作途中の工作作品を見せてくれ、自分で考案した創作活動が楽しいと教えてくれた。それぞれに手作り作品や使い慣れた家具類、思い出の品々に囲まれ、自分のペースで思い思いに過ごしている。どの居室も明るく清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常、一緒家事仕事を行っている。体力に合わせて工夫している。		